

8.20 広島土砂災害後の被災者支援

一山コンサルタント 山下 祐一

1. はじめに

平成 26 年 8 月 20 日未明、広島市安佐南区と安佐北区に豪雨が集中し、死者 74 名をだすなど大規模な土砂災害が発生した。この大規模土砂災害の発生後、「広島県災害復興支援士業連絡会(以下士業連絡会という)」が災害支援を決め、その活動として被災者支援に関係することができた。被災者支援のうち、安佐南区の梅林学区自主防災会連合会から要請のあった「防災マップ作成」の指導、支援について報告する。

2. 士業連絡会とは

士業連絡会は、平成 23 年 3 月の東日本大震災を受け、広島県内の民間の専門家団体がそれぞれの専門分野の知識を集約し、相互に連携して広島県内に避難した被災者への各種相談やカウンセリングなどを実施する目的で発足した。参加団体は、広島弁護士会、広島司法書士会など士業として活動している 14 団体(事務局は広島弁護士会)であり、その中に技術士会も加盟している。

士業連絡会は、広島土砂災害発生後、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議に参加し、ボランティア活動の事務局、運営、管理に対応するとともに、被災者から直接の相談にも対応した。士業連絡会の各士業の専門性を活かした支援として、主に「法律系」、「福祉系」、「技術系」の各士業が担当した。技術的な問題や課題の相談は技術士会にも同席を求められ、被災者や被災者グループから直接相談を受けることになった。

3. 広島市安佐南区梅林学区での防災対策支援

3-1 安佐南区八木地区での「防災対策の勉強会」(平成 26 年 11 月 26 日)

安佐南区八木地区の災害被災場所は、災害の規模も大きく、多くの町内会からなり、今後の復興対応を考える場合、どのようにまとまっていくかも課題と考えられていた。安佐南区社会福祉協議会の登録団体「広島土砂災害コミュニティサポート(以下コミサポという)」は被災者の生活の困りごとや復興の手伝いを中心とした活動を行う団体である。コミサポは、ある町内会の国による事業説明会について、住民から出された質問・意見を整理し、士業連絡会に「防災対策の勉強会」の実施について相談を寄せた。被災住民から出された質問・意見について、項目として整理すると次のとおりである。

- 1) 砂防堰堤について：・砂防堰堤の位置、数、強度、構造、安全性
・砂防堰堤の管理(満砂の対応、管理者) ・砂防堰堤の計画地点以外の災害危険性
・砂防堰堤の工事用道路の位置と構造 ・強靱ワイヤーネット
- 2) 雨水処理・河川改修：・大雨時の雨水処理(道路に水が流れる)
・川幅・流下能力の問題・水はけ、側溝の処理・調整池の整備
- 3) 警戒・避難：・大雨時の安全な避難方法 ・サイレン発信後の避難余裕時間
・遠い公的な避難所対策の一時避難場所 ・高齢者に配慮した一時避難場所・集会所の構造強化策



写真-1 安佐南区八木ヶ丘集会所での勉強会

これらの質問や意見について説明、回答するための防災対策の勉強会は、次のプログラムで行った。

- 1) 「土石流の発生メカニズムについて」 ・土石流とは ・広島豪雨災害の概要 ・地形地質的特徴
- 2) 「土石流防災対策について」 ・最近の土石流防災対策事例
- 3) 「警戒・避難について」 ・広島市の基準雨量 ・ハザードマップ作成事例

その説明後、住民から砂防堰堤などのハード面の質問から、「どのように自分の身を守って行くのか」といったソフト対策まで時間いっぱい質疑が行われた(写真-1)。特に、豪雨時にどこに避難したらよいか町内会で検討したいという町内会長さんの言葉に、技術士会はできるだけ協力することとなった。

3-2 梅林学区自主防災会連合会の防災マップ作成支援(平成 27 年 1 月 17 日、2 月 15 日)

八木ヶ丘集会所で実施した防災対策の勉強会を受けて、梅林地区自主防災会連合会は避難するためのハザードマップ作りに取り組むこととなった。梅林学区は、安佐南区緑井 7 丁目、8 丁目、八木 3 丁目、4 丁目の広島土砂災害で最も被害を受けた地域である。梅林地区自主防災会連合会は、被災した各町内会が自主防災体制の強化を課題として取り挙げ、警戒・避難対策や緊急時の連絡体制の確立、特に地域の防災マップ作成に取り組むことが必要と判断した。



写真-2 各ブロックの境界修正等作業

防災マップの作成の目的は、自分の住む町の災害や危険性を知り、災害発生の可能性がある時、また災害が発生した時に、どのような行動をとるか、事前にどのような場所へどのようなルートを通して避難すればよいかを地域で考え、知り、防災知識や防災意識を高めていくこととした。防災マップ作成による期待される効果は次のとおりである。

- ・町内会の自主防災体制が強化される
- ・地域住民が主体的に関わることにより、防災意識・知識が向上する。
- ・緊急時において、有効に活用することが可能な防災マップが作成される。

平成 27 年 1 月 17 日に、安佐南区梅林集会所において、第 1 回梅林学区自主防災会対策会議が開催された。対象地区を 6 つのブロックに分け、それぞれ 6 名の担当者に参加していただき、防災マップの作成要領を説明した。担当区域の確認、避難時の危険箇所、避難所、避難施設、自宅に近い一時退避場所、避難ルートの選定について話をした。その後、準備した白地図(1/2500)、特別警戒区域・浸水区域図、避難所、住宅地図等を使って担当区域の確認や責任者宿の役割分担等について検討した(写真-2)。

平成 27 年 2 月 15 日には、第 2 回梅林学区自主防災対策会議が開催され、関係する地域の住民が参加する具体的な防災マップ作成の取り組みを行った。それぞれ 6 つのブロックで、避難する時の避難ルート、避難する時の危険箇所、自宅に近い一時退避場所の選定などについて現地で確認する作業を行った。現地調査を行った後は、各ブロックで集まって、防災マップ作りの作業を行った。各ブロックで作成した防災マップをブロックごとに説明(写真-3)し、他のブロックのとの整合も検討した。今後は、避難ルートの選定、避難の危険箇所の周知、一時退避場所の選定などを検



写真-3 防災マップ作成の内容説明

討し、緊急時の連絡体制等をまとめて防災マップを 4 月に完成させる予定である。

4. おわりに

平成 26 年 8 月 20 日未明に発生した広島土砂災害後の被災者支援として、安佐南区梅林学区の防災マップ作りについて取りまとめた。現在住民が中心になって作る防災マップは原稿ができたところである。今後は防災マップを完成させた後、各ブロックごとの防災マップを合計 6000 部印刷して住民に配布した後、6 月はじめに防災訓練をする計画であり、それを今後も指導、支援する予定である。

今回の災害では土業連絡会と連携した対応により、技術的な相談について住民や行政の信頼も生まれ、梅林地区では住民でつくる防災マップ作成を指導、支援することに結び付いたと考えられる。今後も地域住民の支援ができるよう、土業連絡会などとの連携をさらに進めたい。